

五輪に身長別競技？

兒玉 稔

今は知らねども嘗ての小學校運動會、全員參加種目たる徒競争は同學年兒童全クラス員を身長順に整列せしめ、最前列より順番に七―八人程度を區切りて走らしむ。即ち、身長同程度者のグループによる競走。吾輩は脊低けれども一年より六年まで常に一―二位なりき。假に脊の順によらず、より大なる者等と競はばビリならずとも著内に入り得ざるは明らかなりき。學童期の身體能力は體格の差に負ふところ多く、小さき者いかに奮起すれども體格優位の者には叶ふまじ。徒競争は脊低き者にも勝利のチャンスと與へむとの教育的配慮より條件を同等にして競はしめたるべし。

さて、過日の五輪に際して奇異の感を強くせるは、柔道、重量擧げを始めとして選手を體重別に區分して競技せしめる例を散見すれども、脊の高き低きにより選手を區分する競技これ一切無きことなり。五輪によらず國內國際の各種運動競技會にもその例あるを知らず。このことに不公平との聲擧らざる、以前より不思議に思ひ居り。

そもそも今の五輪は同一ルールの下、同條件にて各國代表が競ひ合ふものと理解す。柔道は體格あまりに異なる者との勝負は公平ならずとし、身體條件を合はすべく體重區別制を導入せるものならむ。その結果、柔道日本代表、今回は押し並べて好成績なりしかども、長期的には重量級苦戦、輕量級好成績の印象あり。

他方、陸上競技は如何。特に走高跳び、棒高跳び等の跳躍競技にては身長差又はコンパス差が決定的役割を果すにあらざるや。身長ハンディ大なる日本人選手の成績芳しからざる、これ致し方なきことにあらざるや。

假に跳躍競技にも柔道と同様に配慮を加へて、これを身長別競技にせば、我等が代表にもメダル期待せらるるものを。唯、身長分類毎の成績公表無くして明言をし得ず。更には、バレーボール、バスケットボール等の球技にても脊の高さは重要ファクターと思料す。かく思

ひ至る時、吾輩は或る種の競技には體重別とは別に身長別の等級制を設け同程度身長選手間にて競技するを妥當と致したし。

他方、新なる區分を追加するに際し、體重別に加ふるに身長別區分のみにて足るや否やには考慮の餘地あり。例へば、吾輩の身體條件のうち視力に劣る面あり。「斜位」なる生來の病を持ちたれば物を見るととき脳内にて焦點を結び難し。矯正用眼鏡にて日常不便を補へども、假に吾輩が射撃競技に挑むとならば無病者に比して大なるハンディとなる。さすれば體重別、身長別に加へ視力別區分を設くるが公平なるか。はたまた拳闘競技にはリーチの長短による區分を導入すべきか。これら身體條件區分の各種目への導入可否をいちいち詳細に考慮し始むる時は各種各様の主義主張數多出で、つひには、際限なき議論の迷路に入る事態を生ずべし。

否、否、吾輩の本心は正反對の方角にあり。柔道體重別を始めとする一切の等級區分や條件を廢し、即ち、あらゆるハンディに少しも配慮せず、大も小も男も女も、素手素足にて同じ士俵にて競ひ合ふを是とする、これなむ吾が眞意なる。近時追加せられし雜多なる競技種目、美を競ふ競技、何によらず用具を用ゐる競技は全て五輪より除外したし。ごちやごちや感を誘ふ諸々の條件や恣意的らしき採點基準を捨てさり、わかり易き形にて、輝く太陽の下、裸體にて、驅けっこ、力比べなど極く少數の原始的運動種目のみを、世界の脚自慢、腕自慢が單純明快に競ひ合ふ、これ五輪のあるべき姿なり。現下五輪の肥大は目にあまり、今やオリジナルの形に戻すべき時なりとするこそ吾輩の本意なれ。

勿論、五輪以外の場にてはいかなる競技、いかなる形態の競技會存在せんとも吾輩の關するところにあらず。パラリンピックは五輪の範疇の外にて企畫するがよろし。

(令和三年九月二十七日受附)